

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成27年3月の「優しさ通信」

アプリで介護活用 — ソフトバンクのヒト型ロボ



介護事業者向けコンサルティングのインフィックは、ソフトバンクの子会社が開発したヒト型ロボット「ペッパー」を介護現場で活用するためのアプリを開発します。じゃいけんなどができるアプリを発売します。

(2015年2月2日 日本経済新聞記事から抜粋)

一人暮らし高齢者、死亡多く 個人住宅の対策置き去り



この10年間、住宅の火災件数自体は減っているのに、死者数は横ばいのまま。

住宅火災による65歳以上の高齢の死者は増え、全体に占める割合は71%です。

特に、81歳以上では全年齢層における平均の5.2倍も死者の発生率が高くなっています。

(2015年2月1日 日本経済新聞記事から抜粋)

病院・介護施設を一体経営 格式会社は認めず

厚労省素案 「非営利に」



病院や介護施設を一体的に経営する「持ち株型」法人の新制度について、厚生労働省がまとめた素案がわかりました。「非営利」を前提とし、株式会社の参画は認めません。

同法人の設立は、医療機関を営む複数の法人が集まる場合に限りです。

(2015年2月3日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

アルツハイマー原因物質を排除 — 阪大、仕組み解明



大阪大学は、脳内のたんぱく質がアルツハイマー病の原因物質を捕えて蓄積を防ぐ仕組みを解明しました。アルツハイマー病の治療薬開発などの足掛かりとなる成果です。

アルツハイマー病は認知症の一種で、「アミロイドベータ」という物質が脳内にたまり、神経細胞が死滅して発症すると考えられています。

(2015年2月3日 日本経済新聞記事から抜粋)

車いす利用の挙式プラン — ハイアット大阪



ハイアットリージェンシー大阪は、電動車いすの利用者に配慮した挙式プランの販売を始めたと発表しました。ドレスと一体になった車いすを使い、座った状態でも立ち姿のように見えるようにしました。

(2015年2月3日 日本経済新聞記事から抜粋)

介護費抑制なお途上 — 来年度、9年ぶり単価減

財政難・人手不足続く



介護には総額10兆円が掛かっており、単価を下げても利用者数が増えているため、介護費全体は1%強増えます。65歳以上の人の保険料はなお10%増えますが、40~64歳の保険料は平均負担額を1000円減らします。

特養ホームの利益率は8.7%。

介護職員の月額賃金を1人当たり12000円引き上げます。介護職員の平均賃金は約22万円と、産業界全体の平均に比べ約10万円も少なくなっています。2025年度には、介護職員が30万人も不足すると試算されています。

(2015年2月7日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 3
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

高齢者虐待 15,900件 施設職員は最多221件

— 2013年度

認知症 被害目立つ 社会で支える仕組み急務



厚生労働省は、高齢者が虐待を受けた件数が2013年度は15,900件（前年度比3.9%増）だったと発表しました。大半は家族によるものですが、介護施設の職員による虐待が221件（42.6%増）で、2006年以降で最多でした。死亡した人は21人で、いずれも家族らによる虐待が原因でした。

（2015年2月7日 日本経済新聞記事から抜粋）

介護関連の講座 受講料「割引」広がる

新規採用で人材確保 事業者のニーズに対応



受講料の割引が広がっているのは、介護職に就く人が最初に受けることが多い「介護職員初任者研修」の講座です。

（2015年2月19日 日本経済新聞記事から抜粋）

介護職 派遣料金が上昇 — 1～2年で1割 募集コスト転嫁



介護職の派遣料金が上昇しています。介護施設が派遣会社に支払う1人あたりの派遣料金は、1～2年前に比べて1割前後上昇しました。

全国で働く介護職に占める派遣社員の割合は、1割未満。求人数が増えているのに対し、派遣社員の登録者数は伸び悩んでいます。

（2015年2月28日 日本経済新聞記事から抜粋）



テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具 - 排泄関連用具 その2

失禁の種類とその特徴

☆ 腹圧性尿失禁

くしゃみや咳をしたとき、重いものを持ち上げたときなど、腹圧が上昇した時に思わず尿が漏れる失禁。尿失禁を経験した高齢女性の約半数がこれに該当します。

骨盤底筋という骨盤内臓器（膀胱・子宮・腸など）を支えている筋肉が弱くなることが原因。骨盤底筋が弱くなる主な原因は、妊娠・出産、加齢、肥満、便秘。

骨盤底筋訓練により、改善が見込まれることも少なくありません。

☆ 切迫性尿失禁

強い尿意を感じ、その直後に我慢できずに漏れてしまう失禁。高齢男性に最も多いタイプの失禁。脳からの排尿指示が不安定になり、膀胱が勝手に収縮して漏れてしまいます。早めにトイレに行くが少量しか出ないことが多くありません。

膀胱の過敏な収縮の原因となっている疾患の治療が必要です。適切な薬剤の利用でも改善されます。

☆ 溢流性尿失禁

膀胱に充満した尿が、慢性的に少しずつあふれて漏れる状態。尿意がはっきりせず、尿を勢いよく排尿することもできません。残尿感もおこります。

尿路感染や腎不全をおこしやすい尿失禁です。

☆ 機能性尿失禁

排泄器官の障がいはありませんが、排尿動作に関連した一連の動きや判断ができないために尿が漏れてしまう状態。

尿意を感じていても、トイレまで歩けない、時間がかかるとか、衣服の着脱に手間取り排尿が間に合わない、という運動機能障害が原因。また、認知症などでトイレの場所や使用方法がわからないことで失禁する精神機能障害も原因。

動作を助ける福祉用具の活用や、住環境の整備、着脱しやすい衣類の工夫、そして、運動機能向上のためのリハビリテーションも有効です。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより)